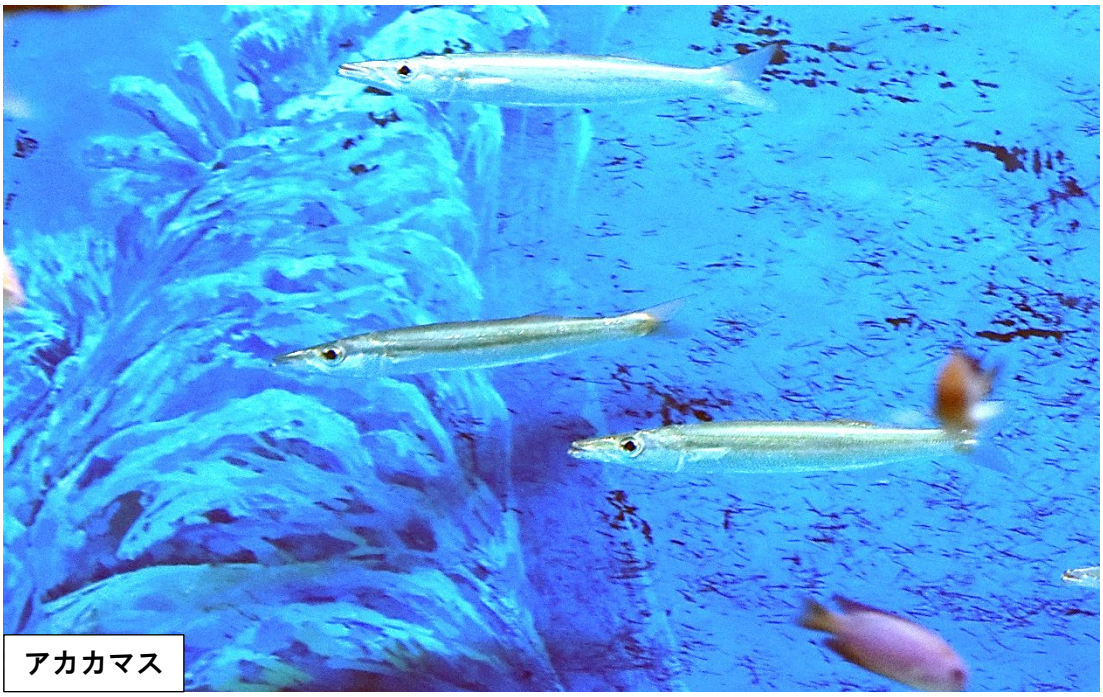
海のはくぶつかん

Vol.52 No.5
2022.9 279 号

今月のいいね！

おひさしぶりのアカカマス



アカカマス

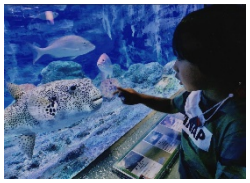
【名前】
アカカマス（スズキ目カマス科）
【すむ場所】
オホーツク海沿岸除く北海道～九州南岸、屋久島、奄美大島、沖縄島。沿岸の浅場にすむ。
【大きさ】
全長３０㎝ほどになる
【当館で見られる場所】
駿河湾の生きもの
【特ちょう】
円とう形の体にするどい歯が特ちょう。肉食で、小魚などを追って食べる。群れで生活する。
【担当学芸員から一言】
当館周辺でも見られ、定置網などに大量に入り、「ホンカマス」と呼ばれて取引されます。味も良く大衆魚として有名な魚ですが、あまり生きた姿を目にすることはありません。ひさしぶりの展示となりますので、ぜひ見に来てください。（K.Y）

トピック

フォトコンテスト

当館では 2019 年より当博物館で撮影された写真を対象にフォトコンテストを開催しています。第３回目となる今年はコロナの影響などもあり前回よりも遅い、3 月から 5 月に写真を募集しました。それでも多数のご応募をいただきました。この場を借りてご応募いただいたすべての方に感謝申し上げます。

その後に行われた厳正なる審査の結果、入選作品 12 点を決定しました。入選された皆様、おめでとうございます。現在、入選された作品については海洋科学博物館にて展示中です。ぜひご来館の際は、ご覧ください。（Y.I）



今年の入賞作品

東海大学海洋学部博物館 〒424-8620 静岡県静岡市清水区三保 2389

四季折々

秋の三保海岸

―ツルナとオカヒジキ―

ツルナの花

オカヒジキの花

海岸でも虫や花々の移ろいから秋を感じるようになってきました。そんな三保の海岸を歩いていると所々でツルナが花を咲かせています。この黄色く小さな花は梅雨時期から 9 月頃まで見ることができます。ツルナは北海道から沖縄までの砂地に自生していますが、食用や園芸品として栽培もされています。食材や花としても良い植物ですが、海浜植物らしい多肉質な葉はぷにぷにとしていて、つい手を伸ばしてしまいたくなる質感をしています。海岸で見かけた際は、その感触を楽しんでみてはいかがでしょうか。

また、秋になるとひっそりと見となる植物もいます。その名はオカヒジキといい、日本全国の砂浜に生息しています。海藻のヒジキに似ていることからこの名がついています。さらに食用とすることができるため、野菜として栽培もされています。そのオカヒジキの花ですが、見頃とは言え、一見花は見当たりません。葉の付け根を食い入るように見つめるとそこに大変小さな花を見ることができます。控えめな花ですが、見かけた際は目を凝らして観察してみてください。

このように秋を感じるようになってきた三保の海岸ですが、残り少なくなったハマゴウの花に蜜を求めて行き交う虫たちなど、まだまだ夏のなごりをとどめています。そんな砂浜の地面では、春から夏に花を咲かせた植物たちによる来年の準備が進んでいます。来年もまたここで、花を咲かせて私たちの目を楽しませてくれることでしょう。（Y.O）

あれこれ

変わりコイのぼり

―初代カクレクマノミから新作タチウオまで―

鯉のぼりは子供の健やかな成長を願いあげるもので、5 月の端午（たんご）の節句には欠かせないものです。当館ではその年に注目する生き物や標本、化石などを毎年変わりコイのぼりとして製作し、ゴールデンウイークにあげています。この変わりコイのぼりは大漁旗を専門に作っている染物店のご主人に製作をお願いし、初年の 1999 年はカクレクマノミやフエヤッコダイなどの７種類を作成してもらいました。それから毎年新作を重ね、現在までに 29 種類 37 匹を数えています。歴代ののぼりには青くてきれいな静岡市の鳥カワセミやシーラカンス、リュウグウノツカイ、オオグソクムシなどの深海の生き物、さらにタルボサウルスやステゴサウルスなどの恐竜たちまでいて、まさに変わったコイ！？のぼりとなっています。

この変わりコイのぼりは製作者の優れた技術によりそれぞれの生き物の形や特徴が立体的に見えるように工夫されています。のぼりの中に風が流れ込んだ時に、どのようにふくらむのかを何度も試してから作られています。そのため魚たちはそのヒレをきれいに広げたり、恐竜たちも手足をまるで生きているかのように動かしたりします。

2022 年の新作はタチウオです。タチウオの展示に合わせ、夏休みにエントランス広場にあげることができました。コイのぼりと一緒に写真を撮っていただいている光景を見ると心が温まります。これからも館の活動に合わせてこの変わりコイのぼりをあげて、花を添えていきたいと思っています。（S.T）

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。
予めご了承ください。

変わりコイのぼり初代と現在

タチウオのぼり

お詫びと訂正

2022 年 7 月号 P.2 にて、スカシテンジクダイをご紹介しましたが、写真の個体は 2018 年に新種記載されましたシンゲツスカシテンジクダイの誤りでした。深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。